

寄生虫（第1・2週）

長野先生担当分

（1）寄生虫の生活史から見た宿主分類について、ウェステルマン肺吸虫を例として概説せよ。

（2）以下の語句について寄生虫に関連する例を挙げて簡潔に説明せよ。

①異所寄生

②自家感染

③経胎盤感染

④ベクター

(3)

①

1. ヒト回虫は産卵後数時間で感染型になる。
2. ズビニ鉤虫は経皮感染・経口感染ともにある。
3. ヒト回虫は犬にも感染して成虫になる。
4. アメリカ鉤虫の感染型は幼虫包蔵卵である。
5. 蠕虫は体内移行する。

②

1. 非固有宿主内で成虫まで発育する。
2. 待機宿主は寄生虫の発育において必須である。
3. 寄生虫は一定の発育段階のみにおいて発育できる。
4. 終宿主内で幼虫まで成長する。
5. 中間宿主内では発育できない。

③

1. クリプトスポリジウムは日和見感染症である。
2. クリプトスポリジウムはヒト以外は保有しない。
3. クリプトスポリジウムは糞便中のシストを検出することで診断できる。
4. クリプトスポリジウムは鞭毛虫類である。
5. プトスポリジウムは水道水の塩素濃度で不活化する。

④

1. アメーバ赤痢は有性生殖する。
2. アメーバ赤痢は栄養型が感染型である。
3. アメーバ赤痢は栄養型は糞便には検出されない。
4. アメーバ赤痢は赤血球より小さい。
5. アメーバ赤痢は脳に病変をもたらす。

⑤

1. 広節裂頭条虫の1中間宿主はサケである。
2. 広節裂頭条虫の感染型は幼虫包蔵卵である。
3. 広節裂頭条虫はヒト以外も終宿主になる。
4. マンソン裂頭条虫の収縮種はひとである
5. マンソン裂頭条虫は幼虫を有する淡水魚の摂取により感染する。

⑥

1. 単包条虫の中間宿主は野ネズミである。
2. 多包条虫はヒトにおいて脳に病変をきたす。
3. 多包条虫の感染型は幼虫の多包虫である。
4. 多包虫は無性生殖で増殖する。
5. 単包条虫は現在日本にいない。

⑦

1. 無鉤条虫は中間宿主である豚の肉により感染する。
2. 無鉤条虫は自家感染する。
3. 有鉤条虫は有鉤囊虫を有する牛を食べることにより感染する。
4. 有鉤囊虫症は虫卵の経口摂取することにより感染する。
5. 有鉤条虫は人以外も終宿主になる。

⑧

1. アメーバ性肝膿瘍では赤痢アメーバのシストが膿瘍中に見られる。
2. ランブル鞭毛虫の感染型はシストである。
3. ランブル鞭毛虫はヒト以外に感染しない。
4. ランブル鞭毛虫は有性生殖によって増殖する
5. アメーバ赤痢症は直ちに保健所に届けなければならない。

⑨

1. トキソプラズマはブタから人への感染型はオーシストによる。
2. トキソプラズマはヒトで垂直感染する。
3. トキソプラズマは終宿主はヒトである。
4. トキソプラズマはブタの糞便を介してヒトに感染する。
5. トキソプラズマは猫の体内でシストを形成しない。

⑩

1. 顎口虫はヒトの眼に感染して網膜炎を発症する。
2. 顎口虫の終宿主はヒトである。
3. 顎口虫の第1中間宿主は淡水魚である。
4. 広東住血線虫の終宿主はカエルなどの両生類である。
5. 広東住血線虫は中間宿主であるカタツムリを食べることにより感染する。

⑪

1. アニサキス線虫の感染による腹痛はアニサキスを胃生検鉗子で取り除くと消失する。
2. アニサキス線虫による感染は -20°C で数日間冷凍しても起こる。
3. アニサキス線虫の感染による腹痛は放置していた場合約2ヶ月続く。
4. アニサキス線虫の感染において即時的アレルギー反応は関与しない。
5. アニサキス線虫はヒトの体内で成虫になる。

⑫

1. マラリアはヒトの体内で有性生殖をする。
2. 三日熱マラリアは中二日の熱型で発熱する。
3. 三日熱マラリアはマラリアの中で臨床経過が最も悪い。
4. マラリアの薬剤耐性は熱帯熱マラリア以外でも問題となっている。
5. 熱帯熱マラリアには冬眠体と呼ばれる休止期が存在する。

⑬

1. マラリアを媒介するハマダラカは日本においては撲滅されている。
2. マラリアはギムザ染色による血液の塗抹標本で診断することができる。
3. 熱帯熱マラリアの血液塗抹標本では輪状体と分裂体が観察される。
4. マラリアは鞭毛虫類である。
5. ヒト三日熱マラリアは犬にも感染する。

⑭

1. 犬回虫はヒトの体内でも成虫まで成長する。
2. 犬回虫症は犬回虫の幼虫包蔵卵をヒトが摂取することによって起こる。
3. 犬回虫症の主な症状は皮膚爬行症である。
4. 犬回虫の幼虫移行症は待機宿主の体内で起こる。
5. 犬回虫の虫体は糞便の中にも見られる。

⑮

1. ニューモシスチスは原虫である。
2. ニューモシスチスは有性生殖によってオーシストを形成する。
3. トキソプラズマは中間宿主であるネズミの体内でタキゾイトを形成しない。
4. トキソプラズマはシストの中に多くのブラディゾイトをもつ。
5. トキソプラズマはシストの検出によって診断を行う。

⑩

1. 糞線虫の感染形はラブジチス型である。
2. 糞線虫は易感染性宿主の自家感染により重い病状をきたす。
3. 糞線虫は自由生活世代でもメスが単為生殖を行う。
4. 糞線虫はヒトに経口感染によって感染する。
5. 糞線虫の成虫はヒトの盲腸に寄生する。

⑪

1. 日本住血吸虫の虫卵によって胆管の栓塞が起こる。
2. 日本住血吸虫の第二中間宿主は宮入貝である。
3. 日本住血吸虫による感染は現在も続いている。
4. 肝吸虫の第二中間宿主はマメタニシである。
5. 吸虫症は中間宿主の行動範囲が狭いために風土病となっている。

⑫

1. 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスは日本にいない。
2. 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスのベクターはヤブカである。
3. デング熱ウイルスはヒトスジシマカによっても媒介される。
4. 日本紅斑熱ウイルスのリザーバーは野鳥である。
5. デング熱ウイルスはトガウイルスに分類される。

⑬

1. ツツガムシ病の病原体はボレリアである。
2. ツツガムシ病の治療ではセフェム系抗生物質を投薬する。
3. ツツガムシ病を診断した場合は7日以内に当該保健所へ届け出なければならない。
4. ツツガムシ病は異なる株でも病原性に違いが無い。
5. ツツガムシ病のリザーバーはツツガムシである。

⑭

1. バンクロフト糸状虫は日本にも存在する。
2. 河川盲目症はオンコセルカの成虫の寄生によって生じる。
3. バンクロフト糸状虫は蚊の中で感染型幼虫となる。
4. オンコセルカはアブによって媒介される。
5. オンコセルカはリンパ管に成虫の状態に寄生する。